

## ASPIRE の活動を通して得た産物

志賀 千晃 外国語学科日本語・国際コミュニケーション専攻 4年  
ASPIRE Reitaku 第3期代表

私は ASPIRE の活動を通し、大きく成長することができました。それは、多くの方々と関わっていく中で、私自身の価値観が広がったからです。ASPIRE の魅力の一つに、この多くの方々と関わることが挙げられます。

まずは ASPIRE という団体について、説明いたします。ASPIRE とは、国連アカデミックインパクト (United Nations Academic Impact、以下 UNAI という) の活動を学生レベルに落とし込んだ団体です。UNAI とは、高等教育機関同士、さらには高等教育機関と国連の橋渡しとなっていて、それに対し学生団体である ASPIRE は、国連・教育機関・学生という三者の輪を構築するために活動しています。高等教育を提供している側だけでなく、高等教育の受給者である学生が関わることで、内側からも教育について考えられるようになっています。

ASPIRE は麗澤大学だけでなく、桜美林大学をはじめとする他大学と協働で活動しています。そのため学内での週例ミーティングに加え、月に一度 ASPIRE Japan の全体ミーティングが行われています。さらに ASPIRE は日本国内にとどまらず、韓国やメキシコにも支部があります。海外の支部とは、年に一度ほど議論を行う機会があります。ASPIRE として活動するにあたって、私たちは高等教育や国際交流というとても大きなテーマに向き合っていて、「どうしたら今より良い大学、教育環境になるか」を考え続けています。

ASPIRE のメンバーには異なる学年・専攻・学部の学生、さらには他大学の学生、大学院生も所属していて、彼らとの議論を通して知識が増加します。心理学や法、メディア、保育、芸術などさまざまな専門分野を学ぶ学生が集まることで、普段の大学生活では知る由もない知識に触れられます。経済用語の「PDCA サイクル」という考え方やメディアリテラシーについてなど、メンバーから教えられ、私の世界は広がりました。

また ASPIRE の活動の一環として、2017 年 7 月、IAUP (International Association of University Presidents: 世界大学総長協会) がオーストリアの首都ウィーンにて開催した Young Scientists Conference (IAUP の 3 年次総会 IAUP Triennial Conference 2017 と並行開催された若手研究者・博士課程学生向けの会議) にオブザーバーとして参加させていただきました。そこでは「学校の役割」や「テロを防ぐためにどのような教育をするべきか」などのテーマに対する研究者たちの意見を伺うことができました。その会議では、とても大きな舞台上で中山理学長が研究発表されている姿も拝見し、麗澤大学の学生であることに誇りを感じました。中山学



IAUP 2017 ウィーン総会に参加した志賀さん (前列右)

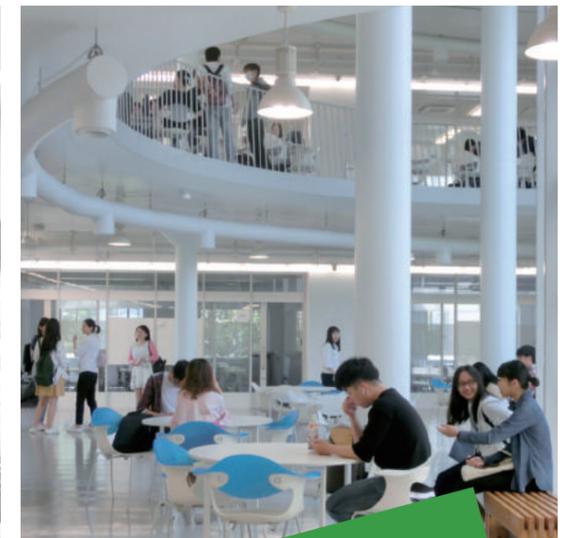
長は日本から参加した学長らの中で唯一登壇し、道德教育の重要性や現状の問題点、さらには麗澤大学の取り組みについて発表されました。鋭い質問に対しても柔軟に答えている学長の俊敏さと聡明さには、改めて感銘を受けました。

また、オーストリアでは唯一日本語教育が行われているウィーン大学への視察もさせていただきました。海外の日本語教育現場を見ることができるのは、日本語教育を専攻している私にとって、大変価値がありました。教科書や書籍から学ぶのとはまた違い、実際の現場を肌で感じることができました。日本語教育がどのように行われているのかを知ると同時に、知識と実践の相違にも気づくことができました。(中略) ウィーンで過ごす一日一日は、私の中の常識や固定概念を大きく払拭する貴重な時間でした。英語でのディスカッションも含め、このような大変素晴らしい機会に恵まれ、更に大きく成長することができました。(中略)

ASPIRE のメンバーとして活動している中で、やはり一番大きな成長となったのは価値観が広がったことです。先にも述べた通り、ASPIRE を通してさまざまな人と繋がることができました。他大学の学生や教職員、学長、教育機関や国連で働く方など、多様なバックグラウンドを持った方々と意見を交わすことで、毎回「そんな考え方もあったのか」と気づかされます。他者との協働によって、物事を複数の視点から捉えられるようになりました。これは麗澤大学で学んだ道徳とも通ずるものがあると思いますが、唯一絶対の答えを求めるのではなく、色々な考え方があることを理解し、その色々な考え方を受け入れるべきなのだとことを学びました。ASPIRE の活動を通して、寛容・柔軟性の強化ができたことはもちろん、アンケート調査や毎回の議論から、表現力、思考の深化・習慣化など、ここには書ききることができないほど多くのことを学びました。大学生の限られた時間の中でこんなにも大きく私を成長させてくれた ASPIRE の活動は、今後も多くの学生の成長に繋がることと思います。ASPIRE の一員として、また ASPIRE Reitaku の代表として活動できたことを誇りに思います。今後も ASPIRE は麗澤大学の名に恥じぬよう活動により一層力を入れていきますので、変わらぬご支援、よろしく願いいたします。

※ 寄稿していただいた在学生の学年は平成 29 年度です

## 教員と学生の近さを伝える麗澤教育の今



麗澤大学では本学における教育、特に建学の精神を中心とした人間教育について、教職員や学生、部活動の指導者、保護者、卒業生などが、お互いに議論を深め、かつ、それぞれの実践や現状を報告するために、年 1 回冊子として『麗澤教育』を発行しています。ここに掲載しますのは、平成 30 年 4 月に発行しました同誌第 24 号〈特集・特色ある麗澤教育〉より、教員と学生から学びの報告です。

平成 30 年 4 月 1 日

## 第2回「グローバル経済経営フィールド演習」(初級)を終えて

経済学部教授 堀内一史

グローバル人材育成専攻は、2016年度に本学経済学部経済学科に開設された新しい専攻である。この専攻のセールスポイントは、「全員留学」。世界に通用する経済人を育成するため、「英語で経済学・経営学を学ぶ」ことに特化し、グローバルなビジネス展開に必要な資質を養うため、学生全員が短期語学研修や半年から一年間の留学を経験する。いうまでもなく、徹底した英語教育と英語による専門科目の授業が用意され、語学力+経済学・経営学の知識+国際教養+αの力が身につく専攻である。

今回紹介するのは、2016年度に始まった「グローバル経済経営フィールド演習」というプログラムである。このプログラムの特徴は、英語研修に加え、現地で活躍する日本人ビジネスマンによる企業セミナーの受講や現地日系企業を訪問する課外授業を含む点にある。研修は、冬休みや春休みを使って開催され、海外研修の前後に本学で行われる事前・事後研修を経て、この研修を修了すると、専門科目2単位が認定される。主な現地研修開催国は、米国、オーストラリア、フィリピン、インドである。

本稿では、18名の参加者を得て2017年度にオーストラリアのシドニーで実施した研修について報告したい。実施日程や内容は、下記の通りである。

【事前研修】8月7日9時～12時10分

【現地研修】8月19日出発～9月11日帰国(研修期間:8月21日～9月8日)

①語学学校による習熟度別英語研修(Sydney College of English)

②グローバル企業セミナー(横浜タイヤ、センコー、PWC[プライスウォーターハウスクーパース])

③日系企業訪問3社(全日空、フジゼロックス、シェラトンホテル)

【事後研修】9月13日9時～12時10分

【プレゼンテーション】9月18日11時～12時

ここからは、項目ごとに順を追って説明しよう。

### 事前研修

事前研修の目的は、参加者に対して、①オーストラリア入国の際に注意すべき点を明確に認識させること、②ホームステイでの生活の心得を十分に認識させること、③現地での訪問企業(組織)についてインターネットを駆使して事前に調査を行わせ、企業訪問による学習効果の向上に資することである。(中略)

### 現地研修

#### ①語学学校における習熟度別英語研修

現地研修は、オーストラリア随一の都市シドニーの中心部に位置する語学学校 Sydney College of English で英語研修とグローバル企業セミナーが行われた。SCEは、1987年に設立され、シドニーで最も早く語学学校としての正式認可を受けた学校で、周りにはシドニー大学、シドニー工科大学、ノートルダム大学が存在する学生街の一角としての立地、講師陣の質、そして何よりも、33の教室と平均クラス人数12名という語学教育環境を誇る語学学校である。このプログラムは、その創立者の1人であり、現地での幅広い人脈を有する新木和広氏の絶大な協力を得て実現可能となった。また、SCEには日本人の助手が常駐し、日本人留学生の様々な相談に応じる体制が整っている。

英語のクラス分けは筆記試験の後、講師陣が個別に面接を行って決定される。8時30分から13時45分まで習熟度別クラスに分かれて英語の授業が行われる。英語運用能力の伸びを促進するために、住環境は、ホームステイを採用している。学生はそれぞれのステイ先から主にバスと電車で登下校する。

#### ②グローバル企業セミナー

セミナーの目的は、グローバル企業に勤務する日本人の先輩が経験した海外勤務の実態や異文化適応上の諸問題を共有し、参加者自らの将来の就職活動の参考に供することである。

SCEでは、英語の授業の他に、毎週1回、14時あるいは15時からおよそ90分のグローバル企業セミナーが行われた。第1回は、8月24日にオーストラリアヨコハマタイヤの相澤幸博社長、第2回は、8月30日に海外での物流大手のセンコーロジスティクス・オーストラリアの杉原圭典社長による講義が行われた。第3回は、

9月6日に、世界4会計事務所のひとつであるPWCを訪問して、日本語の流暢なピーター・ギブソン氏(同社日豪スポーツビジネスプロジェクトのエグゼクティブ・アドバイザー)による会社説明と講義が行われた。

#### ③日系企業訪問3社

これは、海外で活躍するグローバル企業を自分の目で見てそれぞれの実態に触れる絶好の機会を提供する今回の研修の最も重要な構成要素である。(中略)

#### 事後研修と成果の発表

事後研修では、事前研修で把握しきれなかった各企業に関して収集した情報を加え、パワーポイントを作成することが主な目的である。学生は3つのグループに分かれパワーポイントの制作にあたった。

最後に、数名の学生の感想を紹介しておこう。

●「オーストラリアでの3週間は長かったようで短かった。自分の英語力は確実に伸びたと感じたし、企業訪問やセミナーでの話は、どれも貴重なものばかりだった。また、これによって将来の目標みたいなものができたのが一番大きかったので、今回このプログラムに参加して間違いではなかったと思った。むしろ参加してよかった」。

●「今回この短期プログラムに行ってみて価値観が変わった。そして、海外への恐怖心が無くなった。英語のスキルはどうか分からないけれど、確実に自分の精神面が成長したと思った。このプログラムに参加して良かったです」。

帰国後実施した参加学生のプログラム評価でも、7点中ほとんどの項目で、6から7点であったことはこのプログラムへの学生の満足度がいかに高かったかを物語っている。今後ますます充実したプログラムを提供できるよう、評価の低かった項目の改善を図っていきたい。



## 日系企業訪問3社を通して学んだこと

笹原 卓 経済学科グローバル人材育成専攻1年

私は、8月19日から9月11日までの3週間、オーストラリアのシドニーで「グローバル経済経営フィールド演習」の現地プログラムに参加した。その3週間で語学研修、企業訪問、グローバル企業セミナーを受けた。訪問した企業はフジゼロックス、シェラトンホテル、全日空であり、セミナーは、センコー、ヨコハマタイヤ、PWCである。その中でも、全日空、PWC、そしてフジゼロックスへの訪問がとても印象に残っているので、報告したい。

#### 全日本空輸(略)

#### PWC(略)

#### フジゼロックス

フジゼロックスではさまざまな大型複写機を見せてもらい、説明を受けたが、この会社については、その経営理念に感動した。事前研修で調べているうちに、自分の分担ではなかったが、この経営理念に触れ、特別の思いを持った。それは、企業の目的は利益を得たり、成長することだけではないという理念である。また、この企業は多くのことを大切にしている。お客様の満足、環境、高い倫理観、科学的思考、多様性の尊重や楽しむ心である。この企業が大切にしているのは、「社員一人ひとりが幸せ」であり、それが「会社の幸せ」につながり、やがては「世界中の幸せ」へと発展する、という考え方である。

私がこうした経営理念に強く印象づけられたのは、それが、麗澤大学の前身である道徳科学専攻塾の創設者・廣池千九郎の思想、つまり私が麗澤大学で学んでいる「道徳科学」の考え方に非常に似ていると思ったからだ。

最後に、この研修でのさまざまな経験を通して、自分が就きたい職業やそのためには自分に何が必要かということについて少し分かったような気がする。私はオーストラリアで働きたいと思った。それを実現するために、この2月から、シドニーにある麗澤大学の提携校であるオーストラリアン・カソリック大学に留学することになっている。この研修で得た経験や知識を活かして将来の夢に向かって頑張りたいと思う。

※一部省略していますが、全文をお読みにになりたい方は、学長室へお問い合わせ下さい。  
TEL: 04-7173-3602 E-mail: gakuchoitsu@ad.reitaku-u.ac.jp